

# 『日本再興戦略』改訂2014」KPIの主な進捗状況

資料2-2

- 「日本再興戦略」及び『日本再興戦略』改訂2014」において、117のKPIを設定しているが、この進捗状況について、次の区分に整理。

KPI区分	内容	数
A	目標達成期間に対する経過期間の割合以上に、KPIが目標達成に向けて進捗しているもの	35
B	AほどKPIが進捗していないもの	17
F	施策の実行自体がKPIとなっており、年度ごと施策の実施状況を確認するもの  (KPIの例)「遅くとも2020年を目途に電力システム改革を完了する。」	20
N	今後、データが得られるため、現時点で評価困難なもの(今後、データが得られ次第評価を行う)	45
合計		117

## <KPI評価の結果>

A : KPI が目標達成に向けて順調に推移しているもの 35	B : AほどKPIが進捗していないもの 17
------------------------------------	----------------------------

A: 目標達成期間に対する経過期間の割合以上に、KPIが目標達成に向けて進捗しているもの(抜粋)①

「目安ライン」は、このラインに到達するペースと同じペースでその後も進捗し続けた場合に、成果目標に達するラインとしている。例えば、3年間かけて、数値を引き上げていくものであれば、目安ラインは、ベースとなるラインから3分の1引き上げたものとなる。

	KPI	進捗状況	成果目標
1	今後3年(2015年度まで)の内に、設備投資をリーマンショック前の水準(年間約70兆円(2007年までの5年間平均))に回復させることを目指す	<p>2012年度 64.6兆円 今回の目安ライン 66.4兆円 2013年度 66.9兆円 2.3兆円増 2015年度70兆円 (平均1.8兆円増/年)</p>	
2	2013、2014年度で約20万人分の保育の受け皿を整備	<p>2013,2014年度で約20万人分</p>	<p>※保育拡大量は約19.1万人であり、保育の受け皿の増加分のみを積み上げた場合の保育拡大量は、約20.1万人(2013年度、2014年度)(見込み)</p>
3	2020年、25歳～44歳の女性就業率73%(2012年68%)	<p>2012年 68% 2013年 69.5% 1.5%増 2020年73% (平均0.6%増/年)</p>	
4	イノベーション(技術力)世界ランキングを、5年以内に世界第1位に	<p>2013～2014年 5位 → 2014～2015年 4位</p>	
5	今後2年間(2015年度まで)で、サイバー攻撃対応に関する国際的な連携や対話の相手国等の数を現在の約80カ国から3割増を目指す。	<p>2013年 約80カ国 今回の目安ライン 92カ国 2013年 101カ国 21カ国増 2015年度3割増(104カ国) (平均12カ国増/年)</p>	
6	海外に日本の医療拠点を2020年までに10カ所程度創設【1箇所(2013年6月)】	<p>2013年6月 1箇所 → 2013年末 2箇所</p>	

A: 目標達成期間に対する経過期間の割合以上に、KPIが目標達成に向けて進捗しているもの(抜粋)②

	KPI	進捗状況	成果目標
7	UR賃貸住宅におけるバリアフリー対応住宅【約34万戸(2012年度末)→約40万戸(2018年度末)】	<p>2012年度 約34万戸</p> <p>今回の目安ライン 約35万戸</p> <p>2013年度末 約35万戸</p> <p>約1万戸増</p>	<p>2018年度末約40万戸 (平均約1万戸増/年)</p>
8	2020年に農林水産物・食品の輸出額を1兆円とし、2030年に5兆円とする	<p>2012年 約4,500億円</p> <p>今回の目安ライン 5,189億円</p> <p>2013年 5,505億円</p> <p>1,005億円増</p>	<p>2020年1兆円 (平均689億円増/年)</p>
9	2013年に訪日外国人旅行者数1,000万人を達成し(⇒達成)、さらに2020年に向けて、2,000万人の高みを目指すとともに、2030年には3,000万人を超えることを目指す	<p>2013年 1,036万人</p> <p>今回の目安ライン 1,173万人</p> <p>2014年 1,200万人台(見通し)</p>	<p>2020年2,000万人 (平均137万人増/年)</p>
10	我が国企業の2020年インフラシステム受注約30兆円	<p>2012年 3.2兆円</p> <p>今回の目安ライン 3.7兆円</p> <p>2013年 9.3兆円</p> <p>6.1兆円増</p> <p>※数値はKPIとは集計方法や範囲が異なる参考値ではあるが、主要案件の積み上げにより各府省が把握できた金額を集計したもの。</p>	<p>2020年30兆円 (平均0.5兆円増/年 (主要案件の積み上げベース))</p>
11	首脳・閣僚レベルによるトップセールスについて、毎年10件以上	<p>2013年 67件(総理25件、閣僚42件)</p>	

B:AほどKPIが進捗していないもの ①

「目安ライン」は、このラインに到達するペースと同じペースでその後も進捗し続けた場合に、成果目標に達するラインとしている。例えば、5年間かけて、数値を引き上げていくものであれば、目安ラインは、ベースとなるラインから5分の1引き上げたものとなる。

	KPI	進捗状況	成果目標
1	2017年度末までの待機児童解消を目指す	<p>2012年 24,825人 2014年 21,371人 3454人減 今回の目安ライン 16,550人</p>	2017年度末ゼロ人 (平均4,137人減/年)
2	2020年、男性の育児休業取得率:13%	<p>2013年 2.03% 2011年 2.63% 0.6%減 (0.3%減/年) 今回の目安ライン 4.93%</p>	2020年13% (平均1.15%増/年)
3	指導的地位に占める女性の割合を2020年までに少なくとも30%程度	<p>2012年 6.9% 2013年 7.5% 0.6%増 今回の目安ライン 9.8%</p>	2020年30% (平均2.9%増/年)
4	2020年、若者フリーター124万人(ピーク時:217万人)	<p>2013年 182万人 2012年 180万人 2万人増 今回の目安ライン 173万人</p>	2020年124万人 (平均7万人減/年)
5	2018年、国際バカロレア認定校(現在16校)等を200校	<p>2013年6月 19校 2014年9月 29校 ※候補校10校を含む。 10校増 ※候補校3校を含む。 今回の目安ライン 53校</p>	2018年200校 (平均37校増/年)
6	2020年までに、世界銀行のビジネス環境ランキングにおいて、日本が先進国3位以内に入る。	2013年15位 → 2014年 15位(変化なし)	

B:AほどKPIが進捗していないもの ②

	KPI	進捗状況	成果目標
7	2020年までに、世界の都市総合ランキングにおいて、東京が3位以内に入る	2012年 4位 → 2013年 4位(変化なし)	
8	蓄電池、2020年に世界市場の5割獲得	2012年 約1割 → 2013年 約1割 (変化なし)	
9	2020年までに健診受診率(40~74歳)を80%(特定健診含む) 【特定健診実施率速報値45.0%(2011年度)】	<p>2013年 66.2%    2010年 67.7%    今回の目安ライン 71.4%</p> <p>1.5%減 (0.5%減/年)</p>	2020年80% (平均1.2%増/年)
10	ロボット介護機器の市場規模、2020年に約500億円。2030年に約2,600億円【約10億円(2012年)】	2013年 5.3億円 <small>※調査対象企業249社のうち、回答が得られた38社の出荷実績の合計値</small>	2020年500億円 (平均61億円増/年)
11	家庭用燃料電池(エネファーム)は、2020年に140万台、2030年に530万台の普及を目指す。	<p>2012年度末 37,525台    2013年度末 71,805台    今回の目安ライン 207,835台</p> <p>34,280台増</p>	2020年140万台 (平均170,310台増/年)
12	今後10年間(2023年まで)で農業の法人経営体数を2010年比約4倍の5万法人とする。	<p>2013年 14,600法人    2014年 15,300法人    今回の目安ライン 18,140法人</p> <p>700法人増</p>	2023年50,000法人 (平均3,540法人増/年)
13	2018年までに、FTA比率70%以上。(2012年18.9%)	2014年7月 22.6% <small>※日本の貿易総額に占める、2014年9月時点におけるEPA/FTA発効済・署名済の国との貿易額の割合(2013年貿易額ベース)</small>	

B:AほどKPIが進捗していないもの ③

	KPI	進捗状況	成果目標
14	2020年までの、「輸出額及び現地法人売上高」の2011年比: ・「中国、ASEAN等」:2倍	2011年 22.7兆円    2013年 23.5兆円 今回の目安ライン 27.7兆円 0.8兆円増 (0.4兆円増/年)	2020年45.4兆円 (平均2.5兆円増/年)
		2011年度 69.8兆円    2012年度 78.1兆円 今回の目安ライン 77.5兆円	2020年139.6兆円 (平均7.7兆円増/年)
15	2020年までの、「輸出額及び現地法人売上高」の2011年比: ・「南西アジア、中東、ロシア・CIS、中南米地域」:2倍	2011年 7.7兆円    2013年 8.4兆円 今回の目安ライン 9.4兆円 0.7兆円増 (0.35兆円増/年)	2020年15.4兆円 (平均0.9兆円増/年)
		2011年度 16.7兆円    2012年度 17.6兆円 今回の目安ライン 18.6兆円 0.9兆円増	2020年33.4兆円 (平均1.9兆円増/年)
16	2020年までの、「輸出額及び現地法人売上高」の2011年比: ・「アフリカ地域」:3倍	2011年、2013年 1.1兆円 今回の目安ライン 1.5兆円 0兆円増 (0円増/年)	2020年3.3兆円 (平均0.2兆円増/年)
		2012年度 1.5兆円    2011年度 1.6兆円 今回の目安ライン 1.9兆円 0.1兆円減	2020年4.8兆円 (平均0.3兆円増/年)
17	2020年における対内直接投資残高を35兆円へ倍増(2012年末時点17.8兆円)	2012年 17.8兆円    2013年 18.0兆円 今回の目安ライン 20兆円 0.2兆円増	2020年35兆円 (平均2.2兆円増/年)